

## 資料1から資料24について

宇治市の現在の経営状況につきまして、まず貸借対照表からご説明させていただきます。前回の審議会を踏まえて、わかりやすくお伝えできるよう簡略化した事例を用いながら貸借対照表、収益的収支、資本的収支について見ていただけるように資料を用意いたしました。

資料1をご覧ください。こちらは、平成25年度の宇治市水道事業貸借対照表（平成26年3月31日現在）です。まず、赤色部分を見てください。資産の部、負債の部、資本の部と3つの部で、構成されていることがわかります。赤の部分の金額は、資産の部、負債の部、資本の部のそれぞれの部門の合計金額です。次に、黄色の部分を見てください。2か所ありますが、2か所ともに195億4769万3032円となっています。

これは、資料1の左下の四角の中、「貸借対照表は、資産－負債＝資本という考え方なので、負債を右辺にもって行って資産＝負債＋資本となり、資産合計金額と負債＋資本の合計額は、合致します。」ということを表しています。

ですから、負債の部 9億4951万5773円と資本の部185億9817万7259円を足し合わせると黄色の金額195億4769万3032円となります。

平成25年度（平成26年3月31日現在）の宇治市水道事業の総資産は、195億4769万3032円ということを表しています。

続いて資料2をご覧ください。

細かな中身の数字を一旦、見えなくしております。貸借対照表は、7つに分類されていることがわかります。1. 固定資産 2. 流動資産 3. 繰延勘定 4. 固定負債 5. 流動負債 6. 資本金 7. 剰余金 の7つに分類されています。

続いて資料3をご覧ください。

簡略化した事例でご説明をさせていただきます。宇治太郎パン店の貸借対照表（平成26年3月31日現在）をご覧ください。大きな構成は、資料1で見ていただいた宇治市水道事業貸借対照表と全く同じです。事例については、できるだけシンプルにお伝えするために大きな軸だけのお話として作成しております。

宇治太郎氏が、自分の貯金500万円のうち頭金として400万円、加えて借入金2000万円で、合計2400万円のパン工房兼店舗を購入した場合に置き換えてみました。残りの100万円は、現金で持っていることとします。

それぞれ貸借対照表のどこに金額が置かれているかを確認していきます。

まず、資産の部、1. 固定資産をご覧ください。2400万円が、記載されています。パン工房兼店舗を購入したと想定していますので、その金額そのままを1. 固定資産の価値としています。続いて、現金で持っている残りの100万円を見てください。これは、2. 流動資産に計上されます。宇治太郎パン店の資産の部は、2400万円の固定資産と100万の流動資産の合計2500万円となります。

続いて、負債の部の4. 固定負債を見てください。ここに借入金の2000万円が計上されています。負債の部は、この2000万円しかありませんので、負債の部の合計額は、2000万円となります。

ここで、**資料1**で、最初にご説明しました貸借対照表の考え方を思い出してください。資産－負債＝資本です。

宇治太郎パン店の**資料3**の状況を当てはめると、  
2500万（資産）－2000万（負債）＝500万（資本）  
宇治太郎パン店の6. 資本金は、500万となります。

ここで、確認していただきたいのは、2点あります。

- ① 宇治太郎パン店が持っている現金は、100万円であること。
- ② 宇治太郎パン店の資本金は、500万円であり、購入前の自分の貯金500万円と一致していること。

宇治太郎パン店の平成26年3月31日現在の総資産は、2500万円であり、現金100万円と固定資産2400万円を持っていることとなります。

次に、この宇治太郎パン店の一年後の貸借対照表を見てみましょう。

**資料4**をご覧ください。平成27年3月31日現在となっております。

まず、状況として

- ① パン屋の一年間の収益的収支が300万円の黒字であった。
- ② 100万円を借金返済に充てた。
- ③ 資産価値が、減価償却として1年で50万円下がった。

（利息などの細部の設定は、省略しています。）

この3つが、宇治太郎パン店の1年間にありました。

**資料4**の左下に記載しております「1年後、パン屋の収益的収支が300万円で、資産価値が50万円下がり、100万円を借入金返済したと改定しますとこのようになります。」がこの状況のことを指しています。

資産の部、固定資産をご覧ください。昨年度より50万円下がって2350万円となっております。

次に2. 流動資産をご覧ください。

- ① 昨年度の開店時の残金100万円
- ② 収益的収支の黒字300万円
- ③ 100万円の借入金の返済
- ④ 50万円の減価償却

この4つの要素がこの一年間の流動資産の変化となります。

$$\text{① } 100 \text{万円} + \text{② } 300 \text{万円} - \text{③ } 100 \text{万円} + \text{④ } 50 \text{万円} = \text{流動資産 } 350 \text{万円}$$

この④の50万円の減価償却費がなぜ足されるのか？

というところが、一番わかりにくいところです。

後で収益的収支のところでも再度説明させていただきますが、②の300万円の利益を計算するとき、固定資産価値を50万下げたことにより、収益的収支の帳簿上、減価償却費として50万円を支出したが、実際には、固定資産価値が50万下がっただけで現金は支出していないので、現金としては、350万円の利益があったということになります。しかし帳簿上、300万円の利益となるので、現金は50万円多くなります。そこで、④50万円が足されることになります。

宇治太郎パン店の平成27年3月31日の貸借対照表の資産の部の合計は、固定資産2350万円と流動資産350万円の合計2700万円です。

負債の部の固定負債は、昨年度2000万円から100万円を返済しておりますので、1900万円となります。

資本の部、資本金は、500万のまま変動は、ありません。

7. 剰余金をご覧ください。300万円が計上されています。これは、収益的収支の黒字の300万円が計上されます。

負債の部+資本の部は、1900万円+500万円+300万円=2700万円となり、資産の部合計と一致していることがわかります。

**資料5**をご覧ください。

さらに19年後、現在より20年後の宇治太郎パン店の貸借対照表となります。

状況としまして

- ① 20年間毎年**資料4**と同じように収益的収支が300万円の黒字。
- ② 20年間毎年**資料4**と同じように100万円ずつ借入金返済。
- ③ 20年間毎年**資料4**と同じように50万円ずつ資産価値が下がり減価償却。

とします。

資産の部、固定資産を見てください。

20年後の固定資産は、当初2400万円から50万円ずつ20年間  
価値を下げ続けていますので、

$2400\text{万円} - 50\text{万円} \times 20\text{年} = 1400\text{万円}$  となります。

流動資産をご覧ください。資料4と同じように毎年250万円が20年  
間計上されますと  $250\text{万円} \times 20\text{年} = 5000\text{万円}$  となり、最初の1  
00万円と合わせて5100万円となります。

資産の部の合計は、固定資産1400万円と流動資産5100万円の  
合計6500万円となります。

負債の部を見てみます。固定負債については、100万円ずつ20年間返済したこと  
により、2000万円の全額が完済となり、0円となります。

資本金は500万円のまま変動ありません。剰余金は、300万円の利益を20年間  
上げておりますので、 $300\text{万円} \times 20\text{年} = 6000\text{万円}$  となります。

負債の部+資本の部は、 $0\text{円} + 500\text{万円} (\text{資本金}) + 6000\text{万円} (\text{剰余金}) = 6500\text{万円}$

資産の部=負債の部+資本の部となっていることがわかります。

資料6を見てください。

ここでもう一度、平成25年度宇治市水道事業貸借対照表を見てみます。

まず、資産について見てください。

先ほども確認いただきましたが、195億4769万3032円とあります。ここで、  
宇治市水道事業の現在の状況を把握するために、平成6年度以降の推移のグラフを見  
ていただきます。資料7を見てください。

宇治市水道事業の資産の推移を見ると平成6年以降では、平成13年度にかけて資産  
が増加し、平成14年度以降現在まで、減少していることがわかります。

資料6へ戻ってください。

② 流動資産 - 流動負債 = 運転資本 について見てみます。

平成25年度の貸借対照表では、

流動資産 28億5845万3318円 -

流動負債 8億6043万3099円 =

19億9802万219円です。

これが、水道事業会計の正味運転資本となります。

ここで、資料8を見てください。平成6年度移行の正味運転資本の推移を見てみま  
しょう。平成12年度がピークになっていることがわかります。資料6へもどってくだ  
さい。

企業債をみてみます。資本の部の借入資本金というところに、企業債とあります。46億1708万6380円と計上されているものです。これは、先ほどの宇治太郎パン店でいうところの借入金と同じものなのですが、公営企業会計のルールとして、借入資本金として計上しているものです。平成26年度以降は、宇治太郎パン店と同じく固定負債として計上されることとなりますので、いわゆる借入金と考えてください。こちらにも推移をみてみます。**資料9**をご覧ください。平成13年度までは増加し、平成14年度以降減少しております。

もう一度**資料6**へもどってください。

未処分利益剰余金を見てみます。先ほどの宇治太郎パン店の剰余金として計上していたものの水道事業会計版となります。資本の部の剰余金の中の朱色の部分を見てください。当年度未処分利益剰余金とあります。3709万4244円となっています。これが、水道事業会計における利益にあたるものです。

**資料10**の平成6年度以降の推移を見ますと、ここ数年間の未処分利益剰余金は、特に低くなっていることがわかります。

**資料11**をご覧ください。

再度、宇治太郎パン店の貸借対照表に戻ります。現在から20年後の **資料5**の年度に敷地内にケーキ工房兼店舗を増やした場合を見てみます。

新たなケーキ工房兼店舗費用は、3500万円とします。

2000万円を借入れ、1500万円を現金で、増やしました。

資産の部の固定資産を見てください。

**資料5**と同じく既存のパン工房の現在価値1400万円に新たに3500万円の資産（ケーキ工房）を取得することになりましたので、

$1400万円 + 3500万円 = 4900万円$  となります。

次に流動資産を見てください。

**資料5**と同じですので、毎年250万円が20年計上されていますので、 $250万円 \times 20年 = 5000万円$ と最初の貯金の100万円を合わせて5100万円となります。ケーキ工房兼店舗の費用として

現金1500万円を支出しましたので、

$5100万円 - 1500万円 = 3600万円$  となります。

固定資産 4900万円と 流動資産3600万円 で

資産の部の合計金額は、

$4900万円 + 3600万円 = 8500万円$  となります。

次に、負債の部、固定負債を見てみます。

20年前にパン工房兼店舗の借入金は、すべて返していますが、今回、ケーキ工房兼店舗のために2000万円を借入れたため、固定負債は、2000万円となります。

次に資本の部を見ます。資本金を見てください。こちらは、20年前から変動なく、500万円のままです。

剰余金につきましては、**資料5**と同様です。

300万円の利益を20年間上げておりますので、300万円×20年＝6000万円となります。

資本の部は、

資本金 500万円 + 剰余金 6000万円 = 6500万円となります。

負債の部 2000万円 と 資本の部 6500万円 を合わせて

8500万円となり、資産＝負債＝資本 資産＝負債＋資本

が成立していることがわかります。

ここで、資本的収支を見てみます。

**資料12**をご覧ください。

こちらは、平成25年度の宇治市水道事業資本的収入支出明細書です。

赤い部分を見てください。資本的収入の合計金額は、2億4900万1820円、資本的支出の合計金額は、7億8201円1318円となっています。

収入から支出を引きますと5億3300万9498円の不足となっています。

**資料11**と**資料6**の吹き出しを見てください。

流動資産の現金のところの吹き出しのとおり

**資料11**では、50万の減価償却費が20年間積みまれており1000万の現金となっています。また1500万円は、資本的収支の不足額となりますが、こちらの流動資産から払っていることがわかります。

**資料6**をご覧ください。規模が大きくなりますが、宇治市水道事業におきましても同様のこととなります。減価償却費として、6億420万5290円が積みまれており、資本的収支の不足額の5億3300万9498円がこちらから払われています。

この不足額と内部留保資金の関係について、宇治太郎パン店の場合を見てみますが、その前に、資本的支出の建設改良費について、平成6年度以降の推移を見てみます。

**資料13**をご覧ください。

平成6年度から平成25年度までの資本的支出の建設改良費の推移です。平成13年度までと平成14年度以降で支出額に随分と差があることがわかります。

**資料14**をご覧ください。

宇治太郎パン店の平成45年度の資本的収入支出明細書です。

資本的収入は、ケーキ工房兼店舗の為に借入れた2000万円です。

資本的支出は、ケーキ工房兼店舗の購入費用の3500万円です。

収入－支出は、マイナス1500万円です。

しかし、宇治太郎パン店は、1500万円を埋める現金を持っています。

実際に2000万円の借入金と1500万円の現金で、ケーキ工房兼店舗を購入しています。

**資料12**の平成25年度宇治市水道事業資本的収支明細書における

資本的収入2億4900万1820円－資本的支出7億8201万1318円＝マイナス5億3300万9498円に関しても、規模の大小があるものの同じことが起こっています。

先ほど見ていただいた**資料11**と**資料6**の吹き出しのところの流動資産で払っているのです。

続いて収益的収支を見てみましょう。

**資料15**を見てください。

平成25年度の宇治市水道事業収益費用明細書です。

左半分が、収益（収入）で、右半分が費用（支出）となっています。

項目が多いため、費用に関しては、裏面に続いております。

赤色の部分の水道事業収益は、37億5707万6705円です。

支出は、37億5517万6891円です。

差引、189万9814円の黒字となっています。

ここで、**資料1**をご覧ください。

この黒字である189万9814円につきましては、**資料1**の右下のハ当年度未処分利益剰余金 3709万4244円となっていますが、

これは、1年前の平成24年度の同じ項目の当年度未処分利益剰余金

3519万4430円から189万9814円（黒字分）がプラスされたものです。

ここで、再度宇治太郎パン店の状況を見てみます。

資料16をご覧ください。

これは、平成26年度の宇治太郎パン店の収益的費用明細書です。

資料4の貸借対照表と対応していますので、資料4も合わせてご覧ください。

平成26年度に宇治太郎パン店は、300万円の黒字となっていますが、その内訳として、資料16のとおり、営業収益として600万円があり、費用として、経費として250万円、減価償却費として50万があり営業費用として300万円の支出がありました。

収益的収入600万円に対し、収益的支出300万円があるため、差引300万円の黒字となります。

資料4をご覧ください。この300万の黒字は、貸借対照表の資本金の剰余金に計上されていることがわかります。

規模の大小や項目が細部に分かれていたりするので、水道事業に関しては複雑にはなりますが、大きな流れは、宇治太郎パン店の貸借対照表と収益的収支、資本的収支と同じこととなります。

資料17をご覧ください。

再び、平成25年度の宇治市水道事業収益的費用明細書をご覧ください。

黄色の部分の給水収益が主な収入源です。

26億9233万5239円で71.6%を占めています。

一方、支出については、黄色の部分の受水費12億1411万3528円が32.3%を占めており、支出項目の中で1番大きな額となっています。

給水収益と受水費について、平成6年度以降の推移をみます。

資料18をご覧ください。

給水収益については、平成11年度が一番多く、その後徐々に減っています。

資料19をご覧ください。

受水費は、京都府営水道から水を購入していますので、その費用です。

ほぼ横ばいとなっていますが、府営水道の料金が改定されると、ここが、影響を受けることとなります。



続いて、水の量を見てみましょう。

**資料20**をご覧ください。

平成6年度以降で見えますと平成10年度が一番多く、その後減少傾向が続いていることがわかります。

平成25年度と平成10年度では、  
289万6958 $\text{m}^3$ の差があります。

**資料21**をご覧ください。

こちらは、年間総有収水量の推移です。有収水量とは、配水量の内、料金徴収の対象となった水量のことです。

平成25年度には、平成6年度以降で初めて、年間2000万 $\text{m}^3$ を下回り1999万2366 $\text{m}^3$ となりました。

**資料22**と**資料23**をご覧ください。

自己配水量と府営水道の推移です。

自己配水量は、ここ数年は、600万 $\text{m}^3$ から700万 $\text{m}^3$ で推移しており、  
府営水道は、1500万 $\text{m}^3$ から1600万 $\text{m}^3$ の間で推移しています。

**資料24**をご覧ください。こちらは、平成6年以降の推移をグラフで作成した資料の元となる数字をまとめたものです。

以上、平成25年度の宇治市水道事業の貸借対照表、収益的収支、資本的収支、と主要項目について平成6年度以降の推移を見ていただきました。